

会 議 議 事 録

会議の 名 称	生命倫理委員会	日 時	平成26年7月17日(木)17:00~17:30
		場 所	大 会 議 室
出席者	委員長：森村統括診療部長 委 員：澤田臨床研究部長、内炭救急部長、柳田診療部長（欠）、 竹内外部委員、松蔭外部委員、光木看護部長 (書記)庶務係長		
議 題 及 び 討 議 事 項			
<p>【多発性硬化症生体試料バンクを活用したアジア人特有の遺伝環境因子探索による病態解明】</p> <p>受付番号：26-13 頁数：1頁～11頁 (申請者：診療部長 田中 正美)</p> <p>申請者説明：多発性硬化症は再発および寛解を繰り返す中枢神経の脱髄性疾患である。日本において近年その発症数の増加が示唆されており、特定疾患受給件数も1万を超えている。</p> <p>これまでに一卵性双生児で一方が多発性硬化症である場合、もう一方が多発性硬化症を発症する割合は25-30%と、二卵性双生児の場合の3-5%と比べて有意に高いとする報告や、両親が共に多発性硬化症である子供の多発性硬化症の発症リスクは約30%で、片親のみが多発性硬化症の子供のリスクが約3%であるのに比べて有意に高いとの報告があり、単一遺伝子疾患ではないが、何らかの遺伝的要因の関与が示唆されている。</p> <p>また日本においては視神経脊髄炎の割合が20-40%と他の地域に比べて多いという特徴を有しており、日本人における遺伝学的背景の相違を明らかにする重要性は高い。しかしながら、多発性硬化症は我が国においては増加しつつあるとはいえ、その頻度は8/10万人程度とまれな疾患であり、単独施設での患者情報の集積、および遺伝子解析には症例数に限界がある。</p> <p>現在、多発性硬化症に限らず、症例数の少ない難病研究の促進のため全国施設から難病患者の組織、試料を収集・管理し、希望する研究者への提供を行う施設として、難病研究資源バンク（以下「難病バンク」と略す）が設立されている（独立行政法人医薬基盤研究所）。今後の多発性硬化症の遺伝学的解析に資するため、全国組織を立ち上げて各地の医療機関を受診・入院中の多発性硬化症患者を対象として、その医療情報および生体試料を難病バンクへ提供することを目的とする</p> <p>審査内容： ・難病バンクへの遺伝子等提供に関して、研究目的以外にも使用される可能性をどのように除外するのか。 →患者に対する説明書に、研究目的以外には使用しないことを記載すること。</p>			

審査結果：上記意見はあったが、承認。

【ブラウン管モニターと液晶画面モニターを用いた視覚誘発電位 (Visual evoked potentials:VEP) の比較】

受付番号：26-14 頁数：12～17頁

(申請者：臨床検査技師長 小林 茂昭)

申請者説明

【目的】

視覚誘発電位 (Visual evoked potentials 以下VEP) の pattern reversal VEP (以下P-R-VEP) において、液晶画面モニターでの検査値は、ブラウン管モニターでの検査値に比べ、一般的にP100の潜時が10msec延長するといわれている。検査値は環境条件に影響されるため、当院検査室で行った場合の検査値を比較する。

【方法】

Neuropack MEM-2200シリーズでブラウン管のPR-VEP検査を行い、同日、同じ位置に電極を装着してNeuropack X1 MEM-2300シリーズで液晶画面のPR-VEP検査を行い、P100の潜時の比較を行う。

審査内容：特になし。

審査結果：承認。